



残された数秒の母子のいのち

2003年5月 65×45×37 c m

しっかりと乳首に吸いつくわが子。いとおしげにその無心の表情を見下ろす若い母。だが、手に握った手榴弾（日本軍のもの）の安全ピンはすでに抜かれていた。

4秒後には爆発して、母子は肉片となって飛び散る。

戦火に追いつめられた民間人が、こうして自決していく姿はサイパン島で、沖縄で、中国大陸で、多数見られた。

大き骨は先生ならむ
そのそばに
小さきあまたの骨あつまりり

正田篠枝『さんげ』より※

大き骨は…

2012年3月 20×90×90 c m

子どもたちの命を守ろうとしているのは母親か、教師か。3.11大震災が制作を促した。

※ 正田篠枝（1965年6月15日病没）

歌人、平和運動家。広島の被爆経験を詠んだ多数の短歌により「原爆歌人」として知られる。中でも原爆批判に対する厳しいGHQ統制下で1947年に自費出版された歌集『さんげ』が、原爆文献中でも随一の稀覯本として知られている。



